

平成 29 年度呉市立美術館コレクション展 I

読む美術

～絵から読み解くストーリー～



山口薫《広原の鷲》1935年頃

2017年 **4.14** (金) - **6.18** (日)

休館日：火曜日

開館時間：10時～17時（入館は16時30分まで）

入館料：一般 300 (240) 円 高校生 180 (140) 円 小中生 120 (90) 円

※()内は20人以上の団体料金。呉市在住または通学の高校生以下、呉市在住の70歳以上、はたちのパスポート・障害者手帳等をお持ちの方は無料（要証明書）。家庭の日（毎月第3日曜日）は呉市内の中学生以下の方に同伴する保護者の方も無料。

呉市立美術館

KURE MUNICIPAL MUSEUM OF ART

〒737-0028 呉市幸町入船山公園内
Tel. (0823) 25-2007 Fax (0823) 24-9813
<http://www.kure-bi.jp/> kure-bi@beam.ocn.ne.jp

読む美術

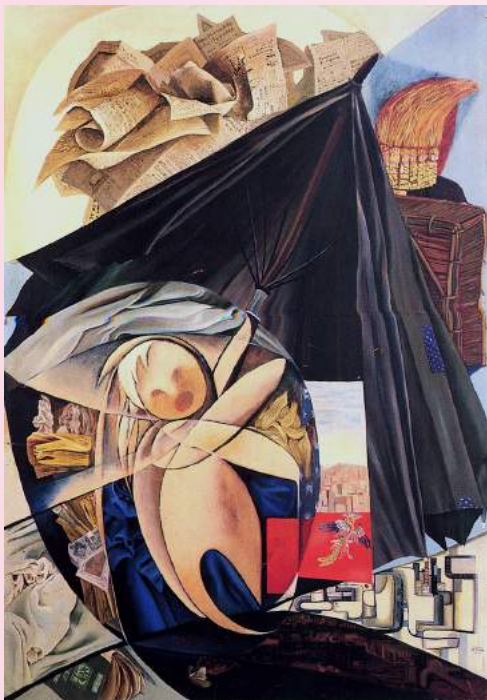
～絵から読み解くストーリー～

美術と文学は古くから「姉妹芸術」と言われてきました。「形」と「言葉」という異なる方法ではありますが、何かを表現するという点が共通していたからです。画家たちにとって小説や能などの物語は、自らの想像力を刺激するインスピレーションの源泉でした。文学作品を自らの表現で新しいものへと変えていき、その中には描かれた物語と、画家が読んで感じた思いが込められています。

また、画家たちの中にも文学に強い関心を抱き、自ら文章を書いていた者も少なくありません。山口薫は自らの作品に詩を添え、小林和作は旅先でスケッチだけでなくエッセイを書き記すなど、画家にとって「形」と「言葉」は密接に結び付いたものでした。

今回の展覧会では所蔵品の中から、小説や能など物語を主題にして描かれた作品や、文学から影響を受けた作家の作品約 40 点をご紹介します。画家、写真家による詩情豊かな作品をお楽しみください。

4.14(金)－6.18(日)



桂ゆき 《こまった》1950年



深沢幸雄 ダンテ『神曲(地獄篇)』より
《ブルネット・ラティエニ》1956年



林忠彦『小説のふるさと 壺井栄「二十四の瞳」』より
《岬の小学校から帰る先生を送る子どもたち》1956年



芹沢銈介『型染どんきほうて』より
《らまんちやの里のどんきほうて作男のさんちよ從え廻国の門出》1975年

ギャラリートーク(申込不要)

展示の見どころを学芸員が解説します。(約30分)

4/14(金)、4/29(土・祝)、5/3(水・祝)、5/20(土)、6/3(土)

各回14時から 場所：1階展示室

(※入館料が必要となります)